



ウクライナ侵攻を考える

法学部宮内教授と佐藤准教授が特別企画

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中、この問題について学生に深く考えてもらおうと、国学院大学法学会は4月18日、特別企画「ウクライナ情勢を考える」を開いた。法学部の宮内靖彦教授(国際法)と、佐藤俊輔准教授(国際政治)が、ウクライナ侵攻に至った経緯と背景、国際社会と国際法への影響などをそれぞれの専門分野から論じた。

冒頭、佐藤准教授が今回のウクライナ侵攻の背景となる歴史的経緯を説明するとともに、ロシアによる侵攻の要因を分析した。最初、歴史的経緯として、2013年以降のユーロマイダン運動やロシアによるクリミア併合、ウクライナ東部のドンバス紛争の状況が解説され、これを踏まえウクライナ侵攻の要因について4つの要因を分析する形で議論が行われた。

次に、宮内教授は国際法から見たウクライナ侵攻の論点について「国際法上は安全保障と国際人道法、この2つの枠組みに分けて考える必要がある」と指摘した上で、「国連の集団安全保障体制の有効性について2つの懸念点がある」と指摘。1つ目は今回、安全保障理事会(安保理)の常任理事国であるロシアが「武力行使をしてはならない」という国連憲章の原則に正面から違反したこと、2つ目は常任理事国が対立したり、拒否権を行使したりして安保理が機能しなくなることだ。企画の後半は学生から活発な質問や意見が出された。中面では当日の内容を詳報する。

6・7面に関連記事

みはるかすもの

3年ぶりに行動制限のない5月の大型連休が訪れた。東海道新幹線の利用者数はコロナ禍前の平成30年比で約8割、昨年比で約2・7倍となり、310万人ほどが利用した▼今年度は鉄道開業から150周年だ。開業時は新橋から横浜間の29kmだった。令和元年度末には旅客鉄道の営業キロ総延長距離は約28000kmとなり、特に都市部では日常を支える重要な移動手段▼4月、JR西日本は「地方公共交通の在り方を前向きに議論するきっかけ」として、赤字路線の収支状況を初めて公表した。100円の運賃収入を得るために、25000円以上の経費が必要という路線もあった▼少子高齢化や過疎化による利用者の減少などは鉄道の運行や維持にも大きな影響を与えている。国土交通省によると、平成12年度から令和3年度までで全国45路線、約1200kmの鉄道が廃止となった▼鉄道をめぐる困難な状況がある一方、2010年代からJR各社が導入する豪華列車の旅行は人気だという。趣向を凝らした客車で、の滞りや食堂車で提供される地場産食材の料理、訪問先のツアーなど、単なる移動手段を超えた体験価値が売りたい▼普段、当たり前のように利用する鉄道だが、その背景には現代社会の課題や新たな取り組み、過去の悲惨な事故からの教訓、安全な運行への関係者の努力があることを忘れてはならない。節目の年に、いつもと違う目線で鉄道を見てはどうだろうか。

神楽座鎮座記念祭 厳肅に斎行

創立140周年の年 さらなる発展を祈念

学校法人国学院大学は5月1日、神楽座鎮座記念祭を渋谷キャンパス神楽で斎行した。

当日は、斎主の北澤薫神楽奉斎員(神道研修事務部長)らが奉仕し、佐柳正三理事長、針本正行学長ら法人傘下諸学校の役教職員が参列した。令和2年度、3年度と緊急事態宣言下での斎行となったため参列者を限定していたが、3年ぶりに学生による神楽舞の奉仕も行われた。

斎主による祝詞奏上では、11月に本法人の創立140周年を控えるなか、さらなる発展を祈念するとともに学生・生徒・園児、役教職員らが勉学、研究などに励むことを誓った。

佐柳理事長は祭典終了にあたり「創立140周年の節目にあたり、『伝統に立つ改革、そして未来へ』として中期5カ年計画を策定した。教育業界を取り巻く環境は厳しさをますが、本法人がさんざんと輝くためにも150周年、200周年を見据え『オール国学院』のもと、一致団結してほしい」と参列者にあいさつした。

本学神楽は、昭和5(1930)年に渋谷キャンパス内に鎮座され、今年で鎮座92年となる。今後、創立140周年記念事業の一環として、たまプラーザキャンパスへ移築する予定。

2面に関連記事



創立140周年記念事業が決定

■ 記念行事

実施日	内 容
11月1日	創立記念祭
11月4日	創立140周年記念式典、創立140周年記念講演、創立140周年記念祝賀会

■ 記念事業

事業名	概 要
新学部「観光まちづくり学部」新設（完了）	4月に新設された「観光まちづくり学部観光まちづくり学科」は、「地域を見つめ、地域を動かす」を理念として掲げ、これまでの教育研究を礎に、文系・理系の枠を超えた学びを提供する。日本各地の歴史や文化を学び、持続可能な「まちづくり」とは何かを考え、地域に貢献できる人材の育成を目指す。
神 ぞうたい 殿造替および境内整備事業	渋谷キャンパスの神域に、明治神宮から寄贈された神殿を改装装飾して造営するとともに、境内整備を行う。それに伴い、現在の神殿（昭和5〈1930〉年5月ご鎮座）をたまプラーザキャンパスに移築して改装を行うことで、耐用年数を延伸させ、伝統的建造物として保存する。
萬葉集全注釈『萬葉集正義』出版事業	『萬葉集』全20巻の注釈書の出版を行う。本学では、これまでも数々の古典注釈を刊行しており、国学・国文学の普及に努めてきた。『萬葉集』注釈としては折口信夫博士（国文学者・民俗学者、1887-1953）や武田祐吉博士（国文学者、1886-1958）などの研究があり、それらを継承・発展させつつ『萬葉集正義』として新たな注釈書を編さん・出版する。これにより、日本文化研究をけん引する大学としての社会的意義を果たす。
『140周年記念誌』編さん事業	創立130周年以降、社会変化が進む中でも大学で人間開発学部子ども支援学科の新設やたまプラーザキャンパス再開発などに着手し、着実に歩みを進めてきた。この間の10年の大学での歩みをまとめた冊子を編さんし、各種事業や取り組みを掲載することで、校史の歴史を刻む。
創立140周年記念展「近代工芸の精華―有栖川宮家・高松宮家の名品と金子皓彦コレクション―」	有栖川宮家の祭祀を継承された高松宮宣仁親王妃喜久子殿下のご高配により、本学では有栖川宮家ならびに高松宮家ゆかりの品々を収蔵している。両家伝来の品々に加え、寄木細工の世界的コレクターでもある院友の金子皓彦氏（昭39卒・72期史）のコレクションも展示し、明治期に輝いた日本の緻密で壮麗な近代工芸の数々を展示する記念展を行う。

学校法人国学院大学は11月、前身となる皇典講究所が明治15（1882）年に創立されてから140年を迎える。このたび、法人理事会は周年記念事業として次の各行事・事業を実施することを決定した（別表）。今後、佐柳正三理事長のもと、各事業を遂行していくこととなる。

創立150周年に向け5カ年基本方針を策定

学校法人国学院大学は令和8年度までの教育・研究の基本方針である「中期5カ年計画（Next Action Plan 2022―2026）」を決定した。

この計画は少子高齢化、コロナ禍における教育の在り方の変容など学校法人を取り巻く社会情勢が激変するなか、今後の5年間で本法人が取り組む基本計画をまとめたもの。

法人の基本方針では創立150周年を見据え、「法人組織の強化」や「絶えず変化する環境に対応できる人材の積極的な養成」、「社会貢献」を掲げた。大学では将来像を「知の創造。日本をみつめ、未来をひらく」とし、教育目標として『問い直す』『学び合う』『共に生きる』と定めた（別表）。

今後、計画終了年度の令和8年度に向け、法人傘下諸学校がそれぞれの将来像と教育目標を達成するため、さまざまな取り組みを行っていく予定。

国学院大学の将来像・教育目標

【将来像】 知の創造。 日本をみつめ、未来をひらく

大学は、単なる知識の伝達ではなく、教員と学生、学生と学生とが共に学び合い、学生の知を日々新たにするとともに、既存の知を問い直し、知識を創造する場。本学は、未来の共生社会を創り出す人材を育成し、これまでの知の蓄積を踏まえて、物事の本質を究め、日本の淵源に思いをいたし、未来をひらく大学となる。

【教育目標】 「問い直す」「学び合う」「共に生きる」

学校法人国学院大学

【法人の基本方針】

創立150周年に向けて、法人組織を強化するとともに、絶えず変化する環境に対応できる人材を積極的に養成し、社会に貢献する学校法人を目指す。

【達成に向けた戦略】

【教育研究の推進】

- Ⅰ 「日本」を知る教育研究の推進と発信
- Ⅱ 共生社会を支える人材の育成

【絆と誇りの涵養】

- Ⅰ 法人組織・仕組みの強化
- Ⅱ 教育研究環境の充実

国学院大学の行動計画

戦略1

共生社会を創り出す人材の輩出

多様性や共生社会をテーマとした研究を学部横断的に行うプラットフォームを構築し、それに基づく体系的なカリキュラムを整備するとともに、低学年次からのキャリア支援により、共生社会を担う人材を輩出する。

戦略2

さまざまな背景を持った学生・教職員が共に学び合えるキャンパスの実現

留学生や社会人の受け入れを積極的に推進するとともに、DX（Digital Transformation）構想を進め、時間的、空間的制約を受けない学修の場や学び合う機会を提供する。出自や文化的背景、思考様式の異なる他者と学び合うことで、多様性の理解を促しながら、共生社会で生きていくすべを身につけ、新たな知を創造するキャンパスを実現する。

戦略3

建学の精神に基づく、日本を学ぶ体系的なカリキュラムや研究を推進する環境の整備

日本と日本文化に関する研究の蓄積を生かし、機構と学部の横断的な研究へ発展させ、その成果を教育に還元していく。さらに、共通教育科目を中心に日本を体系的に学ぶカリキュラムや仕組みを整備し、建学以来、日本に関する教育研究を推進してきた本学の特長をより強固なものにしていく。

戦略4

大学を中心とした多様なネットワークの構築

これまで進めてきたさまざまな連携をさらに拡大し、教育機関、企業、地域や官公庁などとのネットワークを構築する。互恵的な事業を展開することで、相互に固有の価値が形成され、高められていくような取り組みをしていく。さらに、国際的なプロジェクトの推進など、グローバルネットワークの構築も行う。

戦略5

教職員の多様性の確立と、働きやすい職場の実現

採用方針の策定や職場環境の整備により、女性教員比率や若手教員比率を向上させる。事務局組織においては、規模を新学部設置に合わせて拡大し、法人全体で進めているDX構想やオンラインの活用により業務効率を上げ、教育・研究・管理運営支援の機能を強化する。職場環境の計画的な改善により多様性を尊重した活力ある組織を構築していく。



観光まちづくり学部 授業始まる

4月に開設した観光まちづくり学部観光まちづくり学科の授業が同月11日から始まっている。1年次前期に必修で、学部の学修に必要な基礎を学ぶ導入科目である「まちづくりと観光」では、西村幸夫学部長・教授が教壇に立ち、同学部が目指す観光や交流を通じた持続可能な地域づくりに向けて、「地域を見つめ、地域を動かす」ための基本的な考え方を学ぶ。

18日に行われた2回目の授業では、「まちづくり」と「観光」の関係性について講義を行った。西村学部長は「まちづくりと観光は方向性が違う」とし、まちづくりは地域を「共通の家」、全体のもので感じるところから始まり、地域住民と一緒に活動するもので、成果はじっくり表れると紹介。「みんなで取り組むための良い仕組みがでるかがまちづくりの基本」と語った。一方、観光は「相手がいるビジネスで、観光業に携わる個人や組織の努力が基本で成果が数字で表れる」とし、従来は方向性が違うものと考えられていたと説明。

その上で、1998年に初めて登場した「観光まちづくり」の考え方では、「地域社会（繋がり）、地域環境（個性）、地域経済（暮らし）の3つを全体で進めることで地域はより良くなる」とし、「3つがバランスを取るために人材と仕組み（マネジメント）が必要」と学生たちに説いた。同学部が目指す「観光まちづくり」が専門教育の中核となる展開科目の構成に対応していると講義を行った。

授業では、写真資料やデジタルマップ、デジタルストリートビューを多用して、まちの構造なども紹介。「興味があるまちを積極的に調べて」と西村学部長は促し、パソコンを持参した多くの学生が早速、画面をのぞき込み、「まちの姿」を探る様子が見られた。

協定校から交換留学生10人 3年ぶりに来日

国学院大学では、大学院に1人、学部2人、交換留学プログラム（K-STEP）に7人の留学生を3月から受け入れている。

4月14日には国際交流課による歓迎イベントが開かれ、交換留学生や学部、大学院に入学した留学生、国際交流に関心を持つ学生らが参加した＝5面に関連記事。

交換留学生の内訳と滞在期間は次の通り。

- ▶ 交換留学生（大学院）◎南開大学（中国）▷1人（令和5年3月まで）
- ▶ 交換留学生（学部）◎京畿大学（韓国）▷2人（4年8月まで）
- ▶ 交換留学生（K-STEP）◎サラマンカ大学（スペイン）▷2人◎ハノイ大学（ベトナム）▷2人◎ヨーク・セント・ジョン大学（イギリス）▷2人（以上、4年8月まで）
- ▶ 科目等履修生（K-STEP）◎ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学（イタリア）▷1人（4年8月まで）

院友 山本東次郎さん(能楽師) 旭日中綬章を受章



本紙平成29年9月号取材時

政府は4月29日に、春の叙勲受章者を発表し、院友で能楽師の山本東次郎さん（昭和36卒、69期日文）が選ばれた。

山本師は昭和12年生まれ。天保7（1836）年に発し、徳川幕府の式楽を伝承する狂言大蔵流の第四世山本東次郎。昭和17年に初舞台、47年に東次郎を襲名し、長く一線で活躍。平成10年に紫綬褒章受章、19年に日本芸術院賞を受賞。24年には人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定されている。

里見実名誉教授 逝去

国学院大学名誉教授の里見実氏が5月9日に逝去。85歳。

里見氏は昭和11年生まれ。35年東京大学教育学部卒、37年東京大学大学院修了。40年国学院大学文学部専任講師、45年助教授、56年教授。平成19年定年退職。学外活動では教育雑誌『ひと』編集長など。

専門は教育社会学。20世紀を代表する教育思想家パウロ・フレイレ研究の日本における第一人者。著訳書に『希望の教育学』（太郎次郎社）、『学校でこそできることとは、なんだろうか』（同）などがある。

沼部春友元教授 逝去

沼部春友元神道文化学部教授が5月3日に逝去。83歳。葬儀はすでに執り行われた。

沼部氏は昭和13年生まれ。36年国学院大学文学部卒、42年同大学院神道学専攻修了。国学院大学栃木短期大学教授を経て平成12年本学文学部教授、14年神道文化学部教授、21年定年退職。須賀神社（栃木県小山市）宮司。学外活動では神社本庁祭祀審議会委員会委員など。

専門は神道祭祀儀礼。著書に『神道儀礼の原点』（錦正社）などがある。

高山市と連携協定締結 観光まちづくり分野で連携図る



高山市役所提供

国学院大学と岐阜県高山市は4月18日、市の観光まちづくりに関する知識や経験などと本学がもつ知的財産、人材、技能などを生かし、観光まちづくりの分野で連携および協力することに合意し、基本協定を締結した。高山市役所で行われた締結式「写真」には本学から針本正行学長（左から5人目）、梅川智也観光まちづくり学部副学部長

・教授（同4人目）、楓千里地域マネジメント研究センター長・同学部教授（同3人目）らが出席。針本学長と國島芳明・高山市長（右から5人目）が協定書に署名した。國島市長は「これからの社会の中では観光とまちづくりは、関係人口を作っていく上でも、切っても切れないものだ。これまでの取り組みを踏まえて、『観光まちづくり』をきっかけとして、将来的には多様な分野で連携関係を構築していきたい」とあいさつ。針本学長は「観光まちづくり学部では、日本全国の地域と連携を深め、地域に軸足を置き、魅力ある地域づくり・魅力ある観光まちづくりのエキスポットを育てていく。その先駆けとなる最初の包括的連携協定を、歴史と伝統のある高山市と締結できたことは、本学にとっても大変意義あることだ。本学が高山市の課題解決に少しでもお役に立てれば」と応じた。

本学が観光まちづくりに関する連携協定を締結するのは今回が初めて。今後は、観光まちづくり学部所属教員らが令和3年度から実施している市内での共同研究に継続して取り組んでいく予定だ。

交換留学生らと本学学生が交流 学内国際交流企画 3年ぶり対面実施



ジェスチャーゲームで盛り上がる学生たち



ゲームの資料も日本語、英語併記で用意された

国学院大学内で行う国際交流イベント「International Coffee Hour」の今年度第1回が4月14日、渋谷キャンパスで開催され約80人が交流を深めた。

このイベントは留学生と本学学生が1時間程度、コーヒータイムとして雑談を行う気軽な国際交流の場で、令和2年度、3年度はコロナ禍で留学生の来日が叶わずオンラインでの開催となっていた。

今回は3月に来日した留学生の歓迎会を兼ね3年ぶりに対面で開催し、事前予約制による人数制限や飲食を控えるなどの感染予防策も講じられた。

はじめに、星野靖二国際交流推進部委員（研究開発推進機構教授）が「3年ぶりに留学生を本学に迎えられる嬉しく思う。ぜひ充実した留学にしてほしい」と歓迎の言葉を述べた。

続いて、留学生たちが日本語を交え自己紹介を行うと、会場からは歓迎の拍手が送られた。その後はジェスチャーゲームなどで交流が行われた。そのうちのひとつ「こんな人見つけた！」ゲームは、「今月が誕生日の人」「スペイン語で友達と言える人」などのトピックスが記載された用紙が配られ、当てはまる参加者を探すというもの。参加者は英語や日本語などで互いに質問をしながら交流を深め、会場には多くの笑顔があふれた。様子を見守った岩瀬由佳国際交流推進部長（文学部教授）は「本日をきっかけに楽しく交流を深めてほしい」と今後の学生間交流に期待を寄せた。

参加した留学生は「国学院大学の学生とも友人になれ楽しかった。たくさん交流をしていきたい」「勉強、交流を通じて日本文化や日本の方のことをより深く理解できるようになりたい」と充実した様子で語った。本学学生も「ようやく各国の学生と直接交流ができるようになり嬉しい」と交流を待ち望んでいた様子だった。同イベントは今後、毎週木曜日に開催される予定。

工藤氏、「挑戦で潜在能力引き出せ」 第1回Bioominingレクチャー

「達人から学ぶ人間開発」自身を拓く、未来を拓く」と銘打った人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンターの第1回Bioominingレクチャーが4月16日、対面とライブ配信のハイブリッド方式で開催され、約400人の聴講者を前に、プロ野球・福岡ソフトバンクホークス前監督の工藤公康氏が「潜在能力を引き出す力」と題して講演した。写真（上）下とも。

富田一誠センター長（人間開発学部教授）のあいさつに続いて、「子どものころは野球が好きではなく、父親にやらされているようなものだった。しかし、やる以上は早く上手になりたくて週刊誌に掲載された分解写真で一流選手のフォームをまねするなどのオリジナルの努力を続けた」と自らの野球人生を振り返った工藤氏。「潜在能力はみんなが持っており、それを自覚し、引き出す訓練をしなければならぬ。頑張ろうとする自分がいるかがポイント」とし、「高校時代にあらゆるミスを犯して負けた試合もあったが、独自の練習を半年ほど続けてコントロールを身に着けた。この時に学んだのは、集中した練習で能力は引き出せるということ。集中力と潜在能力の関連は大きい」と述べた。さらに、若手時代のアメリカ修



行で現地選手が解雇という苦境に直面しても自分の力を信じる姿を目の当たりにしたことで野球に対する意識を変えた経験を踏まえて、「今日は頑張ったと思える日をどれだけ作れるかが大事。みんなでもやる練習はしたいものではない。そこから自分で何をやるかだが、その時に目的を持つことが必要」と強調した。

一方、「現役を引退し未経験だったテレビの仕事で選手としてのプライドはズタズタになったが、スタッフとのやり取りを通じて話すこと、伝えることを勉強させてもらった」と振り返り、他者からの刺激によって潜在能力が引き出されることを紹介。ソフトバンクを3度のパ・リーグ制覇と5度の日本一に導いた監督時代の経験としては、「育つてもらいたい選手とは交換日記をした。本音を書いてもらい、自分も本音で返すことで分かりあえた部分も大きかった」と思っている。人は自分の限界を浅く思いがちなので、能力を引き出すには本音を知ることが重要」とし、「潜在能力を引き出すにはチャレンジすることが必要で、しんどいとか意味がないと思わずに心が負けないようにすることが大事。困った時に我慢してクリアすることで思ってもみない力が出てくる」と締めくくった。

「国際法が戦争の抑止力持つためには」
学生から質問

企画の後半には質疑応答も行われ、多くの質問が上がった。一部を紹介する。

——ウクライナで民間人が戦闘に参加し、捕虜になった場合は国際法上で捕虜と認められるか。また、ロシアがウクライナ人を強制的に移動させたとの報道もあるが、それは合法と認められるのか。違法だった場合は国際社会からどんな制裁を受けることが考えられるのか。

宮内 文民が戦闘員と認められるには、組織だった行動かどうかや、上官がいるかなどの4つの条件を満たしたり、群民蜂起の場合は戦闘員（捕虜）として認められる。2つ目の質問については、まず文民を狙ってはいけないのが大前提だし、占領軍は占領下の文民の生活を確保する責任がある。それにもかかわらず連行された場合は違法となる可能性がある。ウクライナが賠償請求したり、裁判に訴えたりすることなどが可能だ。

——仏大統領選でルペン候補がロシア寄りの発言を繰り返した。欧州の安全保障に影響は出るのか。

佐藤 影響が出ることは確かだ。ルペン氏はEUやNATOに対しても批判を続けた。欧州の結束の在り方も変えるだろう。

※同選挙は4月24日に決選投票により現職のマクロン大統領がルペン候補を破り再選

——最近見たテレビドラマで主人公が言った「殺人事件そのものを止める法律はなく、罰する法律はある」という言葉が印象に残った。今回のウクライナ侵攻でも、武力侵攻を抑止する法律はないということが証明されたと感じている。国際法が抑止力を持つためにはどう改善したらいいのか。

宮内 武力行使を論じる時に必ず出る質問だ。国際社会は各国が権力を分有している分権社会である。他国にまで自国の権力を及ぼそうとする時に戦争が起こる。各国の権力闘争を抑えるためには何が必要かとなると、例えば「世界連邦」など強大な権力が必要になるという主張もあったが、実際には難しい。これが国際社会だ。

抑止できないことを嘆くよりも、いかに抑えるか、その手段を考えることが必要だと思う。各国が自国の思惑で動くのは国民の幸福のためだが、国益の実現もさることながら、自分のこととして国際社会全体をどのように運営するのかという視点から考える必要がある。

▶ **欧州安全保障協力機構**（Organization for Security and Co-operation in Europe）
1975年に欧州安全保障協力会議として設立された。1995年よりOSCEへ名称を変更。北米、欧州、中央アジアの57カ国が加盟している世界最大の地域安全保障機構。安保問題の政治的対話の場の提供などにより、政治・軍事、経済、人権などを含むさまざまな課題に取り組む。本部はウィーン（オーストリア）。

▶ **独立国家共同体**（Commonwealth of Independent States）
ソビエト連邦が崩壊する際に、同連邦を構成していた15カ国中12カ国が参加し結成された国家連合体。ウクライナは創立当初から関与していたが、CIS憲章は批准せず、正式メンバーとしてではなくCIS創設国・パートナー国として活動に参加していた。ロシアによる2014年のクリミア半島併合に反発し、2018年正式に脱退を表明。

▶ **国連憲章第51条**
国連加盟国への武力攻撃が発生した場合、安全保障理事会が必要な措置を取るまでの間、個別的または集団的自衛権の行使を認める条項。

▶ **国際刑事裁判所**（International Criminal Court）
国際法違反の犯罪である「集団殺害犯罪」「人道に対する犯罪」「戦争犯罪」「侵略犯罪」を犯した個人を国際法に基づき訴追・処罰するための国際機関。所在地はオランダのハーグ。



長期化するウクライナ侵攻

政治と法律の専門家の解説と分析、多くの学生が聴講



1 一連のウクライナ危機の経緯

14年にクリミア危機、和平プロセスは膠着

今回のウクライナ危機の発端は、2013年に遡る。2013年11月にウクライナが欧州連合（EU）との間で進めていた連合協定締結を、ビクトル・ヤヌコヴィッチ大統領（当時）が延期したことがきっかけだ。

これにより開始された反政府デモが次第に拡大し、翌14年2月に政府との間で大規模な衝突が生じると、ヤヌコヴィッチ元大統領はロシアへと亡命した。親欧州の暫定政権が樹立すると、同月にウクライナ南部クリミア半島で親ロシア派武装集団などが最高議会などを占拠する。ロシア軍も活動する中、3月16日（現地時間・以下同様）クリミアで「独立」の是非を問う住民投票が行われ、ウクライナからの独立とクリミア共和国の樹立が発表されると、ロシアは直ちにクリミアを併合した。同年4月、親ロシア勢力がウクライナ東部ドンバス地方にあるドネツク、ルハンスク両州の支配地域で「建国」を一方的に宣言、これをめぐり紛争が生じることとなった。

15年2月、ウクライナの隣国、ベラルーシの首都ミンスクでウクライナ、ロシア、ドイツ、フランスの4カ国による首脳会議が行われ、このウクライナ東部をめぐる紛争の停戦に合意した。いわゆる「ミンスクII合意」である。その内容は13項目から成り、全面停戦や欧州安全保障協力機構（OSCE）による監視、ウクライナ・ロシア国境の管理回復、外国部隊・兵器・傭兵の撤退の他、ドネツク、ルハンスクの「建国宣言」し

た一部地域の暫定的な地位を規定する特別地位法適用の恒久化や脱中央集権化を軸にする憲法改正などがポイントになったが、以降、和平プロセスは停滞し続けた。そして今年2月21日、プーチン大統領が、ドネツク、ルハンスク州で「建国宣言」を行った2地域をそれぞれ国家として承認する大統領令および両国との相互援助条約に署名すると、24日にウクライナ東部での「特別軍事作戦」を実施するとこの演説が行われ、大規模な侵攻が開始された。これに対しては、3月2日の国連総会決議に比べても国際社会から強い非難と反発を招いている。

2 ロシアによる侵攻の説明要因

佐藤准教授はロシアによる侵攻がなぜ行われたのか、その決定を説明するために考える背景要因として次の4点を挙げ、それぞれについて論じた。

要因① ドンバス地方の2国家の保護

ロシアのプーチン大統領はその演説の中で「ドネツク人民共和国」「ルハンスク人民共和国」への侵略に正当性を見出すことは国での平和維持を特別軍事作戦の理由として挙げたが、ウクライナ

要因② プーチン大統領のイデオロギー

それでは何が今次の侵略を説明する要因となるのか。第1にプーチン大統領個人の要因を考えると、プーチン大統領は2021年に「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について」という論文を発表し、「ウクライナの主権はロシアのパートナーシップにおいてのみ可能となる」と主張している。このようなイデオロギーは今回の侵攻を説明する一因と成り得る。

要因③ ウクライナの西側への傾斜

第2にウクライナの内政の変化が要因として考えられる。東西冷戦終了後、ユシチェンコ政権（2005～2010）が欧米との関係強化を目指すようになったが、次のヤヌコヴィッチ政権（2010～2014）は、ロシアの主張する関税同盟への加盟を見送った。一方、北大西洋条約機構（NATO）加盟も目標とせず、ロシアとヨーロッパの間でバランス外交を行った。

要因④ NATOの東方拡大

第3に国際システムの要因として挙げられるのがNATOの東方拡大だ。当初NATOの拡大は一定程度慎重に行われたと言えるが、それでも2008年のブカレスト宣言で「ジョージアとウクライナはNATO加盟国となるであろう」との一文が挿入されたことは、その後のロシア側の認識に影響した可能性がある。この記述はその後の宣言では言及されていなかったが、2021年のブリュッセル首脳会議ではブカレスト宣言を再確認している。

3 国際法上の論点

武力不行使原則と国連体制への常任理事国による挑戦の危険性

続いて宮内教授が、今回のウクライナ危機に対する国際法の論点を説明した。国際法上は安全保障の国際法と国際人道法の2つの枠組みに分けて考える必要があるとし、まず国際人道法に触れた上で、安全保障上の論点を詳しく論じた。

論点① 国際人道法

国際人道法上の論点としては、国際刑事裁判所（ICC）の対象犯罪のうち、戦争犯罪、ジェノサイド、人道に対する犯罪が問題となっている。ウクライナは、既にICCの管轄権を受け入れているので、40カ国以上の提訴を受けて、捜査が開始されている。

論点② 武力行使の合法性

安全保障上の論点としては、（1）武力行使の合法性と（2）集団安全保障の問題がある。ロシアは今回のウクライナ侵攻を国連憲章51条の「自衛権」に基づく主張し、根拠としてNATOの東方拡大、ドンバス地

論点③ 国連の集団安保の状況

国連の集団安全保障体制も危機に曝されている。2月に国連安全保障理事会はロシア非難決議案を審議したが、ロシアが拒否権を行使したので、3月に国連総会は緊急特別会合を開き、ロシア非難決議を採択した。ロシアの

論点④ ウクライナの安全保障

戦後はウクライナの安全保障が問題となるであろうが、「永世中立」は安全保障方式として一考の余地がある。

宮内教授によると総会と加盟国によって集団安保体制を補完する努力がなされているが、今回の事態によって国連の集団安全保障体制の有効性に2つのレベルの問題が生じているという。1つ目は常任理事国が正面から武力不行使原則に違反した初の事例である点2つ目は常任理事国が自国の国益のために拒否権を行使して安保理が機能麻痺した点である。拒否権を廃止すれば済む問題ではなく、また国連なくしてどのように武力不行使原則を遵守させるかが問われかねない指摘する。

新型コロナ関連のお知らせ

感染症予防／登校時の留意事項

●キャンパス内での集団感染を防ぐため、「基本的な感染症対策」や「対面授業など登校時の具体的な留意事項」などを心がけてください。

●基本的な感染症対策

- ◇マスクの着用と咳エチケットの徹底
- ◇手洗いや手指消毒の徹底
- ◇3密（密閉・密接・密集）を避ける取り組みを
- ◇換気（窓や扉の開放またはエアコン作動により）
- ◇ワクチン接種

●感染リスクが高まる場面に注意

- ◇飲酒を伴う懇親会や大人数での飲食
- ◇マスクなしでの会話
- ◇休憩・移動時の気の緩み（教室移動・更衣室など）

●対面授業など登校時の具体的な留意事項

- ◇毎朝検温をし、「検温表」に記載・持参を
- ◇食事の際は個食、黙食の心がけを
- ◇体がだるい、熱がある、喉に違和感があるなど、いつもと体調が異なる時は登校を控え（登校後は帰宅し）、医療機関受診を
- ◇ワクチン関連の欠席（接種日・副反応）は、K-SMAPY II の Q & A で、担当教員へ連絡を

陽性／濃厚接触の場合は報告を

●新型コロナウイルス感染症に陽性／濃厚接触となった場合は以下の報告フォームに入力してください。必要に応じ保健室から電話で詳細を確認します。

[本学HP] > [在学生・保護者] > [学生生活支援] > [保健室] > [登校停止感染症の手続き] > [新型コロナウイルス感染・濃厚接触者等報告フォーム]

授業欠席／登校停止期間について

●授業欠席について

以下に当てはまる場合は登校を控え、対面授業は欠席してください。

- ①学生（本人）が感染・発症した場合
- ②学生（本人）が濃厚接触者となった場合
- ③同居者が濃厚接触者かつ④の症状がある場合
- ④以下の症状がある場合
 - ◇37.5℃以上の発熱がある
 - ◇37.5℃以上の熱がなくても明らかな風邪症状（平熱より明らかに高い熱、咳、強いだるさ、息苦しさなど）がある

「3密」を避けよう



密閉空間



密接場面



密集場所

咳エチケット



マスクがあれば正しく着用する



ハンカチやティッシュペーパーで口と鼻を覆う



服の袖や肘の内側で口と鼻を覆う

さ、息苦しさなど）がある
▷嗅覚障害・味覚障害がある

●欠席連絡について（試験を含む）

K-SMAPY II の Q & A で、担当教員へ連絡してください。該当する上記の「授業欠席の事由①～④」を必ず記載してください（これらの事由による欠席への配慮を教務部から担当教員へお願いしています）。

なお、追試手続きが必要な場合は、教務課・たまプラーザ事務課にも連絡してください。

●登校停止期間の確認

保健所・受診した医療機関の医師の指示に従ってください。指示がない場合は、以下の資料を参照してください。

[本学HP] > [在学生・保護者] > [学生生活支援] > [保健室] > [登校停止感染症の手続き] > [新型コロナウイルス：療養・待機期間について]

ワクチンの職域接種について（6月実施予定）

●本学では、渋谷キャンパスで新型コロナワクチンの職域接種を実施予定です。今後の案内を確認し、接種を希望する方は申込を行ってください。ワクチン接種により副反応が起こる可能性はありますが、自身の感染・重症化予防の他に、諸事情により接種できない方を守る「集団免疫」のメリットもあります。この機会に接種をご検討ください。

【接種期間】 6月23日(木)～26日(日)

【使用ワクチン】 モデルナ社製

【対象者・案内配信方法】

▷本学学生（学部生・院生・専攻科生・別科生）

には、K-SMAPY II の「お知らせ」で案内します

▷本学教員・職員には、メールなどで案内します

【接種条件】 新型コロナワクチン2回目接種済（令和3年12月22日までに完了されている方）

「専門って、何ですか？」。筆者が学生のための就活をしていた際、これと類似した問いかけを複数回、人事課の方から耳にしました。これは、決して大学教育を疑うための問いかけではありません。学びのスタイルへの要望でした。それを一言で言えば、「学習」から「学修」へ、です。国学院大学の学生手帳にも、「学習」とは記載されています。「学修」です。では、「学習」と「学修」は、どう違うのでしょうか。学力と結びつけて言うならば、前者は学んだこと、後者は学ぼうとする力、学ぶ力、学んだことを生かす力と言えます。前者は習得し、積んだ知識の量の範疇です。それに対し、後者は使える知識の範疇です。ここで、学びのあり方をテーマにするのはなぜでしょうか。本学学生は確かに、真面目さについては伝統的に定評があります。しかし、学力については、必ずしも誰もが自信を持っ



ていたとは言えないからです。「大人しくて真面目だけれど、いまいち覇気がない。この会社は私をどのように使いたいのか、と逆に質問するぐらいの気概を持つ学生さんはいても良いのでは」。これが、就活先で聞いた本学先輩の声でした。たしかに、高度情報化社会、学術的には「脱工業化社会」（D・ベル）以前の工業化社会においては、知識の量で個人の能力が測られる傾向がありました。工業化社会では、「同じことを、同じやり方で、同時（みんな一緒）に」、上意下達（ピラミッド）方式で、業務は遂行されたのです。しかし、知識の量が指数倍に増加する今日の情報化社会では、それでは対応できなくなりました。むしろ、それらはAに任せて、「自ら考え、自ら表し、自ら実行する力」が求められるようになりまし

た。今日、社会が、大学教育やその被教育者である学生に求めるのは、まさに「学修」なのです。百

「学修時代」の学び／Oからの出発



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

大学からのお知らせ

「指定寄付金」ご協力のお願い

国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広く寄付を募っています。寄付の種類は「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の4つに加え、学生の課外活動（スポーツ強化部会など）を支援するための「課外活動支援」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツなどの課外活動に熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらおう仕組み。ワンコイン（500円）から寄付が可能で、メッセージはそのまま専用HPで公開されます（匿名可）。

専用紙またはインターネットでのクレジットカード決済（VISA、Mastercardの2種類）が可能です
総務課（☎03・5466・0111）
※本法人への指定寄付金は税制上の優措置を受けることができます。寄付に関する情報は専用HP（<https://kifu.kokugakuin.ac.jp>）で閲覧できます

大学院体験授業のご案内

国学院大学大学院の通常授業を聴講できる体験授業を昨年に続き開催します。本学大学院への進学に興味を持つ本学の学部生の方であれば、どなたでも申込が可能です。各曜日6回の授業が対象で、複数回の受講も可能です。
この機会に「大学院の学び」に触れ、研究の楽しさや深さを体験してください。

5月30日(月)～7月9日(土)
学部1～4年生
大学院各教室
大学HP（QRコード）の申込フォームから
無料
大学院事務課（☎03・5466・0142）

TOEIC®学内テスト（第3回）

国学院大学英語教育センターは英語学修の促進のため、学内で団体受験特別制度（IP：Institutional

令和4年度 進学相談会一覧（～6月）

都道府県	都 市	会 場	開催日	時 間
茨 城	水 戸	リリーアリーナMITO	5月26日(木)	10：40～18：00
東 京	水道橋	東京ドームシティ	5月27日(金)	13：00～18：00
東 京	渋谷	渋谷ヒカリエ ヒカリエホール（9階）	5月28日(土)	10：30～17：00
群 馬	高 崎	ピエント高崎	5月29日(日)	11：30～17：00
埼 玉	春日部	ふれあいキューブ	6月 1日(水)	13：00～18：30
神奈川	横 浜	横浜新都市ホール（横浜そごう）	6月 4日(土)	13：00～17：00
栃 木	宇都宮	日環アリーナ栃木	6月 7日(火)	14：00～18：30
愛 知	名古屋	ナディアパーク デザインセンタービル	6月11日(土)	10：00～17：00
千 葉	幕 張	東京ベイ幕張ホール	6月12日(日)	11：00～16：00
広 島	広 島	広島国際会議場	6月12日(日)	10：00～17：00
長 野	長 野	ビッグハット	6月15日(水)	14：30～18：30
長 野	松 本	やまびこドーム	6月16日(木)	13：55～18：30
埼 玉	川 越	ウェスタ川越	6月17日(金)	14：00～17：30
大 阪	梅 田	梅田センタービル	6月18日(土)	10：00～17：00
福 岡	福 岡	エルガーラホール	6月19日(日)	10：00～17：00
山 梨	甲 府	アイメッセ山梨	6月19日(日)	12：00～17：00
東 京	池 袋	池袋サンシャインシティ	6月19日(日)	11：00～16：00
東 京	文 京	文京シビックセンター スカイホール（26階）	6月22日(水)	10：30～15：00
北海道	札 幌	ベルヴェオフィス札幌	6月25日(土)	10：00～17：00
宮 城	仙 台	仙台国際センター	6月26日(日)	12：00～17：30

Program）としてTOEIC®テストを実施しています。公開テストとIPテストのスコアの有効性はTOEIC主催団体により同一とされていますが、一部の企業や公務員採用試験、大学院入試などによっては公開テストの結果の提出を求められる場合がありますので、留意してください。

7月9日(土)
14時30分集合、17時15分散会予定
（実際の試験時間は2時間）
渋谷キャンパス
学部1～4年生、大学院生
詳細は大学ホームページ（QRコード）、K-SMAPY IIの「お知らせ」で確認を
3800円
英語教育センター（渋谷キャンパス百周年記念館1階）

本学が参加予定の進学相談会（5月下旬～6月）

各地で開催される進学相談会に参加を予定しています。入学試験制度や本学の学びに関する最新情報をもとに、進学に関する疑問や質問に直接お答えしま

す。本学への進学をお考えの受験生、保護者の方はぜひご来場ください。
※今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大などによって、変更が生じる場合があります
日・時・場別表参照
問入学課（☎03・5466・0141）

博物館

無料
原則、水・木・金・土曜日の12時～17時（最終入館16時30分）。短縮開館
※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

企画展「沖縄復帰50年 うちなーぬ ゆがわりや琉球・沖縄学と國學院」

昭和47（1972）年5月15日、アジア太平洋戦争の終結後、米国の統治下にあった沖縄県が日本に返還されました。今年はちょうど50年の節目の年に当たります。また、さらに遡った150年前の明治5（1872）年には日本の明治政府によって琉球国の外交権が剥奪され、琉球藩が設けられました。その後、明治12（1879）年に琉球藩は廃止されて、今日につながる沖縄県が設置されています。日本とは異なる琉球国が存在した沖縄の歴史や文化に対する研究は「沖縄学」と呼ばれ、国学院大学はその創設期から深い関わりを持ってきました。
そこで、国学院大学博物館では沖縄の本土復帰50周年および琉球処分開始150周年を機会として、企画展を開催することとしました。本展では沖縄の歴史や文化について振り返るとともに、本学と「沖縄学」研究との関わりについて再確認したいと思います。

開催中～7月23日(土)
企画展示室

オンラインミュージアム 春の特別列品「鎌倉幕府と執権政治」解説動画のご案内

4月2日から5月14日まで開催していた春の特別列品「鎌倉幕府と執権政治」の解説動画を国学院大学博物館オンラインミュージアムで公開しています。本学図書館が所蔵する『吾妻鏡』や久我家文書など貴重な資・史料を教員による解説とともに無料でご覧いただけます。会期中にお越しになれなかった方もぜひご覧ください。
視聴は以下の本学博物館公式YouTube（QRコード）から

イベント

第47回日本文化を知る講座「沖縄復帰50年 歴史・文化・沖縄学」

3人の講師が沖縄の歴史や文化、沖縄学について講演を行います。本学博物館で開催する沖縄復帰50年の企画展の関連イベントです。
7月2日(土)
13時30分～17時

キャリアサポート

※詳細確認・申込はK-SMAPY II から行って下さい

公務員2次試験対策講座（面接練習会）

公務員試験の2次試験に向けて、個別での面接練習を行います（状況によりWEBで実施）。
6月16日(木)・27日(月)、7月7日(木)
10時10分～（個人ごと異なります）
対4年生

〈インターンシップ対策講座〉グループディスカッション&面接対策講座

インターンシップ参加に向けて、面接やグループ

渋谷キャンパス常磐松ホール
100名（事前申込・先着順）
無料
博物館ホームページ（QRコード）から
※定員に達した場合は受付を終了いたしますので予めご了承ください
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大など国内の状況に大きな変化があった場合には、中止を含め変更が生じる場合があります

ディスカッション突破のポイントを解説します。場面や雰囲気に応じた発言やコミュニケーションを取れる適応力を身につけましょう！

6月8日(水)
16時10分～17時40分
対1～3年生
インターンシップなんでも相談会

この相談会では、個別でインターンシップについての不安、疑問をオンラインで相談できます。ぜひご参加ください。
5月30日(月)、6月1日(水)
12時10分～13時
対1～3年生

ようこそ

新入生！

来たれ

2・3年生！

私たちの部活・サークル・研究会紹介



平家物語研究会

隔週1回、野中哲照先生（文学部教授）のもとで『平家物語』の一部分を参加者全員で読み、それぞれが文章の中から感じ取ったことや疑問点について話し合います。自由参加制のため、忙しい方でも無理なく続けることができます。専門知識も必須ではないので、『平家物語』に触れてみたいという方はぜひお気軽にお越しください！

ここが自慢！ 文章を丁寧に検討することで、古典文学に限らずさまざまな場面で応用できる「読み」の力が身につけられます！

構成	1年1人、2年3人、3年6人、4年4人、大学院生1人
活動場所	渋谷キャンパス、Zoom
Twitter	@Heikeken1



長唄研究会

長唄とは、歌舞伎舞踊の伴奏音楽として発展してきた三味線音楽の一つです。長唄研究会では、三味線と唄を学び、日本文化の実践を行っています。練習は週に1回程度で、会員のほとんどは初心者です。毎年年末に他大学と合同で開催される「学生長唄連盟演奏会」に向けて稽古を重ねています。長唄を通じて江戸時代からの日本文化に触れてみませんか。

ここが自慢！ 一生続けられる趣味になります。江戸の文化や風物、歌舞伎や能狂言などさまざまな日本文化を学ぶ機会にもなります。

構成	1年5人、2年1人、4年1人
活動場所	【渋谷】若木会館共用室ほか
Twitter	@kokudai_nagaken



たいら・ゆうな 国学院大学神道文化学部卒業。小学生のとき映画オーディションに合格し芸能界入り。その後、映画、テレビドラマ、バラエティー番組などで活躍、CM出演も多数。令和4年にミュージカル「奇跡の人」で舞台初出演。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

（談）

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

女優という仕事では、日常のさまざまな実体験が演技に役立つ。実際に経験することが大切だ。後輩の皆さんにも勉学以外も含めて、ぜひいろいろなことを経験してほしい。

先輩に
聴く

「思いを繋ぐ」女優と神職に通じる使命感

舞台にも挑む女優 平祐奈さん（令3卒・129期神文）

三重苦の少女ヘレン・ケラーと家庭教師アニー・サリヴァンの苦闘の日々を描いたミュージカル『奇跡の人』が5月18日から6月5日まで東京芸術劇場（東京都豊島区）、6月8日から12日まで梅田芸術劇場（大阪市北区）で上演される。ヘレン・ケラー役を演

じ、新境地を開こうとしているのは、舞台初挑戦となる平祐奈さん（令3卒・129期神文）だ。

演技で難しく感じるのは、セリフがないなかで、三重苦の少女の感情をいかに的確に表現できるかという部分だ。このため盲学校に通い、聾唖の世界も体験し、演技力を高める努力を重ねた。ヘレン・ケラーという人物は内外の幾多の女優によって演じられ、それぞれのヘレン像が作られてきた。私も、私の色で彼女を演じればいいのか。

自分への期待感もある。東京と大阪の公演が終了した後の自分は、今とはどう変わっているのだろうか。何かを掴み取るであろう、公演終了後のもう一人の自分と対面するのが楽しみだ。

ユニバーシティゲームズ 2年連続の延期 日本代表内定の4選手を紹介



柔道男子 押領司選手



陸上男子 中西選手



陸上男子 平林選手



卓球女子 阿部選手

国際大学スポーツ連盟（F I S U）は5月6日、中国・成都で6月25日から7月7日に開催予定だった大学生の世界大会「ワールドユニバーシティゲームズ」（旧・ユニバーシアード）を、2023年に延期すると発表した。3月以降、中国で新型コロナウイルス感染症が再拡大し、収束が見込めないための措置で、昨年に続き2回目の延期となった。

本学からは、学生3人と院友（本学卒業生）1人の4選手が3競技で日本代表に内定しており、初め

て同一大会に複数名、複数競技に出場し世界の舞台に挑む予定となっていた。

大会への出場は叶わなかったが、今回、日本代表の座を勝ち取っていたのは、学生が柔道男子90Kg級で押領司龍星選手（経営4）、陸上競技男子ハーフマラソンで中西大翔選手（健体4）と平林清澄選手（経営2）。卒業生は卓球女子の阿部里歩選手（令4卒・130期神文、豊田自動織機）で、本学在学中に行われた選考大会の結果で代表となっ

ていた。

過去、同競技会には本学から柔道男子81kg級に川上智弘柔道部コーチ（2011年中国・深圳）、同60kg級に藤阪泰恒さん（平31卒・127期健体育、17年台湾・台北）が出場とともに金メダル、陸上競技男子ハーフマラソンに秦玲さん（平16卒・112期経、03年韓国・テグ10位）が出場、島崎慎愛選手（経営4）が延期となった昨年大会代表となっていた。

ソフトテニス部

春季首都リーグで男女とも活躍

国学院大学ソフトテニス部が所属する首都学生ソフトテニス春季リーグ1部が、男子は4月17日、女子は4月24日に本学相模原グラウンドテニスコートで開催され、同部は男女で優勝する活躍を見せた。

1部リーグ戦は、無観客で部員による声援も禁止とするなど新型コロナウイルス感染症の予防策を講じ、男女とも所属する6大学総当たりの団体戦で実施された。

男子は各大学とダブルス4試合、シングルス1試合の計5試合で勝敗を決する方式で行われた。初戦の駿河台大学戦は接戦となるも3-2で制し勢いをつけると、専修大学、東海大学、帝京大学、東京経済大学と立て続けに勝利。5戦全勝で勝点5とな

り、昨年度の秋季リーグに続き2連覇を果たした。

女子は各大学とダブルス2試合、シングルス1試合の計3試合で対戦。駿河台大学、文教大学との対戦では各試合で競り合いのなか、粘りのプレーを見せ2連勝とすると、続く順天堂大学にも勝利。第4戦では東海大学に惜しくも敗れたものの、優勝のしかった東京経済大学との直接対決で勝利を収め、5戦4勝1敗で勝点4を獲得し優勝。令和3年度の春・秋季リーグに続き3連覇を成し遂げた。

同部は令和3年度秋季リーグに続き、2季連続での男女同時優勝を果たし、5月に行われる予定の関東リーグ戦（男子1部、女子2部所属）など今後の大会に向け、弾みをつける結果となった。



リーグ2連覇の男子



リーグ3連覇の女子

団体・個人の成績

剣道部＝男子第68回関東学生剣道選手権大会が5月8日、日本武道館（東京都千代田区）で開催され、同部の野口修選手（経ネ4）が4回戦まで進み、第70回全日本学生剣道選手権大会の出場権を獲得した。

蹴球部＝同部が所属する東京都大学サッカーリーグ戦1部は5月15日時点で延期となった試合を除き、第7節までが終了。同部は6戦中4勝2敗・勝点12となり全12大学中1位となっている。

卓球部＝令和4年度関東新人選手権大会が4月29日(金)～30日(土)に座間市立市民体育館（神奈川県座間市）で行われた。

同部女子はシングルスで泉田和抄選手（経1）、加賀美恵奈選手（神文1）がベスト8、ダ

ブルスで鯨津萌々子選手（経2）・泉田選手のペアがベスト8に入賞した。

バスケットボール部＝第71回関東大学バスケットボール選手権大会が4月23日～5月8日にかけて全90大学が参加して行われた。同部男子は、1回戦の都留文科大学に151-34、2回戦の上智大学に102-50で勝利。3回戦で東海大学に50-114と敗れ敗退した。

第56回関東大学女子バスケットボール選手権大会が4月23日から5月8日にかけて全70大学が参加して行われた。本学女子は1回戦シードとなり、2回戦で神奈川大学に109-57、3回戦で青山学院大学に87-65と勝利。4回戦で早稲田大学に58-96と敗れベスト16となった。

強化部会の主なスケジュール

柔道部＝東京学生柔道優勝大会（男子71回・女子33回）（5月29日(日)・日本武道館〈東京都千代田区〉）

蹴球部＝東京都大学サッカーリーグ戦1部対東京農業大学戦（5月28日(土)）、対上智大学戦（6月5日(日)）

卓球部＝関東学生卓球選手権大会（6月14日(火)～16日(木)・所沢市民体育館〈埼玉県所沢市〉）、第91回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）（7月6日(水)～9日(土)・スカイホール豊田〈愛知県豊田市〉）

バスケットボール部＝第62回関東大学バスケットボール新人戦（6月6日(月)～12日(日)・大田区総合体育館ほか）

第12回関東大学女子バスケットボール新人戦（5月21日(土)～6月12日(日)・各体育館ほか）

K:DNA——創立140年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

硬式野球部

東都大学野球春季リーグ 連覇ならずも2位で終盤戦へ

対青山学院大(第二戦)で逆転本塁打の伊東選手(中央)とベンチで迎えた選手たち



対青山学院大(第二戦)で本塁打の山本選手



対青山学院大(第一戦)で好投した坂口選手

初の地方開催で開幕を迎えた東都大学野球1部春季リーグは、第2週から神宮球場に舞台を戻し全6週中5週までを終了。国学院大学硬式野球部は、5月17日の第5週終了時点で6勝5敗0分、勝点2で2位となっている。

開幕戦で中央大学に2連勝し首位前進となった同部は、第2週で亜細亜大

学と対戦した。4月12日の第一戦は1-5と敗れたが、翌13日の第二戦では一回表に柳館憲吾選手(法2)の適時二塁打で先制すると、その後も得点を重ね4-1で勝利。第三戦は4-13と敗れ1勝2敗となった。

第3週では日本大学と対戦。4月19日の第一戦では五回裏に先制され

るが七回表に山村航大選手(日文4)のソロ本塁打で1-1と追いつき、九回表に相手の四球、失策から1点を加え2-1で勝利した。20日の第二戦は1-4、21日の第三戦は0-1で敗れた。

順位争いが佳境を迎えた第4週は青山学院大学と対戦。4月26日の第一戦は六回表、山本大輔選手(健体4)のソロ本塁打で先制すると七回表にも1点を追加。九回裏に1点を奪われたが守り切り、2-1で制した。先発の坂口翔颯選手(経営2)は、八回途中までを投げ、4安打に抑える好投を見せた。翌27日の第二戦では、0-

3とリードされ迎えた八回裏、本学打線が爆発。無死一塁から山本選手が2ラン本塁打を放ち2点を返すと打順はクリーンナップを迎え、三番の柳館選手、四番の青木寿修選手(経ネ4)がヒットで出塁。1死一・三塁とすると五番の伊東光亮選手(経2)が3ラン本塁打を放ち5-3と逆転する。その後は最終九回で登板した瀬崎絢選手(経3)が相手打線を抑え込み、見事な逆転勝利で2連勝となった。

1部リーグは第4週終了時点で勝点数から亜細亜大学の優勝が決定。本学硬式野球部は残る第6週で2位争いに挑む。

東都大学野球1部春季リーグ順位表(5月17日時点)

順位	大学名	勝数	負数	分数	勝率	勝点
1	亜細亜大学	9	3	0	0.750	4
2	国学院大学	6	5	0	0.545	2
3	中央大学	5	5	0	0.500	2
4	青山学院大学	5	6	0	0.455	2
5	駒沢大学	5	7	0	0.417	1
6	日本大学	3	7	0	0.300	1

柔道部

全日本強化選手選考会 押領司選手がベスト8 男子66kg級で卒業生が優勝・準優勝

柔道の全日本強化選手選考会が5月7日から8日に講道館(東京都文京区)で開催され、国学院大学柔道部からは押領司龍星選手(経営4)、川田武史選手(経4)が出場した。この大会は昨秋に開催予定であった講道館杯が1月に延期となり、最終的に中止となったことを受け、今年の強化選手を選考するための代替試合として開催された。

男子73kg級の川田選手は、1回戦で岡山岳人選手(桐蔭横浜大学)に小外刈りで技ありを奪い勝利した。2回戦で吉田優平選手(自衛隊体育学校)に敗れベスト16となった。

男子90kg級に出場した押領司選手は、1回戦シードとなり、2回戦から登場。長濱佑飛選手(東海大学)との対戦では、得意の背負い投げを決め一本勝

ち。続く3回戦では白川剛章選手(パーク24)と互いに攻め手を欠き、それぞれ指導を受けるなか延長戦に突入。試合開始から8分を過ぎ、押領司選手が3つ目の指導を受け反則負けを喫した。押領司選手はベスト8となり、秋に開催される講道館杯への出場権を獲得した。

院友(本学卒業生)からは4選手が出場した。男子66kg級決勝では院友同士の対戦となり、武岡毅選手(令4卒・130期日文、パーク24)が優勝、相田勇司選手(令4卒・130期法、A L S O K)が準優勝となる活躍を見せた。同級では新井雄士選手(令4卒・130期史、皇宮警察)がベスト16に、男子90kg級では北野裕一選手(平25卒・121期経営、国学院大学栃木学園)がベスト4に入った。



ベスト8となった押領司選手(写真は昨年全日本学生柔道体重別選手権大会)